

## 北斗句会(2年7月)選句集

森田 光彦

特選

NO. 2 5 緑陰や仮設小屋からドラム音

暑さを吹き飛ばすドラム音。涼しさを感じます。「から」→「より」では？  
または、「仮設の小屋の」では？

選

NO. 1 夕立の予兆に終ふ畑作業

「夕立の予兆」である雲の動き、雨模様の風等から、帰り支度の様子が目に見える。

NO. 2 7 蛍来て闇に濃淡つけて去る

「闇に濃淡」の措辞が面白い。

NO. 3 8 冷奴かど美しく切られをり

「かど美しく切られをり」の措辞が冷奴の冷たさを見事に表しています。

NO. 4 2 夕立あとあたりを払う天守閣

夕立あとの爽やかさを感じます。措辞「あたりを払う」が良い。

宮下 ひかる

特選

NO. 33 荒梅雨や更けて山鳩啼き止まず

大磯海岸のアオバトをイメージしました。まさに、鳴き止まず100羽以上もいるのに、団結の良さを良くとらえている。

選

NO. 3 早朝の精気貰ふや蓮の花

事実早朝に、蓮は花を破裂音を伴い咲き始める。正しく精気をもらう感じがします。良く捉えていると思います。

NO. 16 父の日やひねもす介護手を抜けず

今や父となってみて、自分の父を見る目が真剣になった。その様子がよく伺えて、お互いに微笑ましい。

NO. 23 手花火や家族の笑顔照らし出し

コロナの問題で、今年は花火大会ができず、もっぱら家族の手花火。家族団欒を謳い、その喜びに満ちている。

NO. 31 睡蓮や朝飯前の寺参り

敬虔な寺参り、それに添うように睡蓮が咲く。如何にも寺参りが睡蓮の雰囲気と協調し、敬虔でやさしい人柄が出ている。

## 藤田 紀潮

### 特選

#### NO. 33 荒梅雨や更けて山鳩啼き止まず

二句一章の俳句らしい俳句。梅雨の夜更け、激しい雨で山鳩が寒さで啼いているのか、それとも、小鳩に一大事が生じたのであろうか。  
「啼き止まず」が切ない。

### 選

#### NO. 1 夕立の予兆に終ふ畑作業

畑仕事はいつも天気模様との折り合い。「予兆に終ふ」が好措辞。  
「畑作業」はかるく「畑仕事」ではどうか。

#### NO. 3 早朝の精気貰ふや蓮の花

早朝の蓮の花が開くのを見て、生きる力を頂戴。元気印の作者。

#### NO. 16 父の日やひねもす介護手を抜かず

多分、父君は百寿越え、その介護（看取り）に当たる作者に敬意を表します。父君の眩き：今日はずっと違うなあ…。下5に諧味。

#### NO. 38 冷奴かど美しく切られをり

一物俳句の明快さ。形よく切られ、形よく皿に載せられた冷奴は、ことのほか美味。

## 太田黒 幸風

### 特選

#### NO、42 夕立あとあたりを払ふ天守閣

夕立が去った後の爽やかな空気の中に、一段と大きくなったように浮かんでいる天守閣が彷彿とする。

### 選

#### NO、14 朝採りや男料理の胡瓜もみ

朝採りのぱりぱりとした胡瓜の感触が伝わってくる。

#### NO、23 手花火や家族の笑顔照らし出し

花火を囲んでいる家族の幸せな光景が目には浮かぶ。

#### NO、38 冷奴かど美しく切られをり

冷奴の単純な姿であるがすっきりとして、如何にも美味しそう。

#### NO、41 何もかも知っているらし水中花

無機質の水中花であるが、それなりに何もかも飲み込んで知っているという、風刺がぴったりと合っている。

## 竹内 雲泉

### 特選

#### NO. 27 蛍来て闇に濃淡つけて去る

夕涼みでしょうか。縁側に座って居ると、蛍が一匹「来て」→「去る」、この時空に「闇に濃淡をつけて」が（墨絵の表現に似て）素晴らしい。

### 選

#### NO. 1 夕立の予兆に終ふ畑作業

夕立の兆しを察するや、あたふたと畑作業を終える様子が浮かびます。「予兆」と表現されたのは、いくさびと用語のようで元自衛官作者らしい。

#### NO. 6 夕焼けや沈み入るまで紅の中

「朝焼けと夕焼けどちらが美しい？」と議論したことがあります。好みによりますが……。夕陽の沈むときは、何にも代えがたい美しさ。

#### NO. 13 躓きて脛蹴飛ばす初浴衣

久々に浴衣を着て、まだ着慣れていない様子が目に浮かびますが？「中6」破調？ しかし、音律気持ちよく、良い句と感じ入りました。

#### NO. 38 冷奴かど美しく切られをり

冷奴は、ガラスの器に盛られ綺麗に切っていないと美味しく感じません。ここに出された冷奴は、美味しそうですね。

## 田中 資凡

### 特選

#### NO. 24 母を呼び膝の高さの水遊び

水遊びをして、大声で母を呼ぶ元気な子供の姿が浮かぶ。「膝の高さの」の措辞がこどもの年恰好、水遊びの様子をも想起させ巧みな句。

### 選

#### NO. 8 青田風筑波山は雲の湧くところ

青田の広がる向こうに筑波山、その上に雲が湧きあがっている見慣れた景を、筑波山に焦点を当て「雲の湧くところ」と断定した措辞が巧み。

#### NO. 19 奈良井宿旅人駆くる大夕立

古い宿場町での景、夕立に駆けている旅人は、本人か他者か不明だが、一幅の絵を想起させる旅吟句。

#### NO. 33 荒梅雨や更けて山鳩啼き止まず

雨音に交じり夜更けになっても山鳩の鳴き声が聞こえてくる。「更けて」の措辞が叙情を誘う。

#### NO. 38 冷奴かど美しく切られをり

角崩れず綺麗に切られている冷奴、その角に焦点を当て「美しい」と詠んでいるのがよい。如何にも涼しげで旨そう。

## 吉岡 誠山

### 特選

#### NO.16 父の日やひねもす介護手を抜けず

速く亡くなった父親のことを思う。自分が、息子に世話をされている感じが伝わってくる。愛情あふれる感情を、何気なく読んだ素晴らしい句だと思う。

### 選

#### NO.14 朝採りや男料理の胡瓜もみ

これだけでも男料理のことを詠み上げたのに感心する。俳句をやるからには、料理の知識も当然必要なんでしょうね。色々課題が見つかった感じですね。

#### NO.23 手花火や家族の笑顔照らし出し

手花火本来の使用例ではないかと思われませんが、気持ちの良い俳句になっておりますね。

#### NO.26 明け方にこの世に出し蟬の鳴

蟬の心情を察した人情味あふれる状況を詠んだところが素晴らしい。ただ、明け方にを、～の、～やに変えてみたらいかがでしょう。

#### NO.37 夕焼くる富士の高嶺や挙手の礼

夕焼けの中に、富士の神秘的な姿を見事にとらえているのは見事です。そして、自然に挙手の礼となる情景描写が的確です。

## 深見 十万

### 特選

#### NO. 19 奈良井宿旅人駆くる大夕立

浮世絵で見たことのある情景を思い出す。上手いこと創ったなあ。

### 選

#### NO. 7 公園に子

コロナ禍が去ってようやく普通の生活が戻った。

#### NO. 23 手花火や家族の笑顔照らし出し

家庭団欒の様子が楽しい。

#### NO. 32 紅ほのと遠くにふゆる蓮の花

毎朝、散歩する蓮池の紅蓮を思う。

#### NO. 41 何もかも知っているらし水中花

部屋の隅で終日、人の動きを見ている様子。

## 大崎 石州

### 特選

#### NO. 24 母を呼び膝の高さの水遊び

大好きな水遊び。子供は母親のしている前で遊びたい、喜びに満ちた歓声が聞こえてくる。中七の「膝の高さの」に子供の年齢が感じられ、諧味がある。

### 選

#### NO. 3 早朝の精気貰うや蓮の花

早朝の風情を蓮の花で締めている。すがすがしい一句。

#### NO. 14 朝採りや男料理の胡瓜もみ

畑を持っているものであれば、朝採りの新鮮な野菜で一度はやってみたい。「や」は「で」が良いのではないか・・・。

#### NO. 29 見事なる君らの素足夏来る

健康に満ちた若者の素足。夏が来たことを実感させる。

#### NO. 39 晩酌の膳を賑わす初鯉

初鯉を肴にこれからチクと飲むぞ！と意気込みが感じられる。

## 長池 豆陽

### 特選

#### No.8 青田風筑波山は雲の湧くところ

雄大な夏の景。雲は青田の命、その雲を生む筑波山は神々しい存在。

### 選

#### No.10 なおさんの通りし道や立葵

真似のできない強烈な足跡を残し、今はコロナ禍の中、木曾路踏破に挑戦中の句友なおさんへの応援歌。夢追い旅、頑張れ！なおさん。

#### No.17 夕顔の白さ一際闇をつき

黒と白の対比映像。白は無彩色、闇でも隠し切れない、科学的俳句。

#### No.20 トロッコに乗りて牛歩の蝸牛

絶対的に動きの遅い蝸牛も、トロッコに乗れば高速度。諧味全開。

#### No.42 夕立あとあたりを払ふ天守閣

洗浄に加え、夕立特有の清涼感。見上げる天守閣が清々しい。

## 大森 康正

### 特選

#### NO. 33 荒梅雨や更けて山鳩啼き止まず

「山鳩啼き止まず」に季語の取り合わせで不安感が助長された。啼き声には寂しさと何か訴えている様な重みがあり、言外の情趣に引き込まれる。

### 選

#### NO. 8 青田風筑波山は雲の湧くところ

上五下五の切れが良く爽やか。句材が雄大、盛夏の勢いが感じられる。

#### NO. 15 イケメンの仏にしとど半夏雨

俗語「イケメン」を使った心意気を称賛。これにより新鮮味増。風化した羅漢像の多い中に「イケメン像」とは、発見である。

#### NO. 19 奈良井宿旅人駆けくる大夕立

200 余年程昔、宿場として栄えた頃の風景版画の光景が、オーバーラップされ興味深い。

#### NO. 37 夕焼くる富士の高嶺や挙手の礼

素直な表現。敬虔な雰囲気漂う。体験してきた国旗降下の光景や心情が蘇った。

## 山縣 秀雄

### 特選

#### NO. 27 蛍来て闇に濃淡つけて去る

蛍の一瞬の動きを良く観察しており、暗闇に光ったり消えたりする蛍の光る姿を「濃淡をつけて」と詠んだ表現が素晴らしい。

### 選

#### NO. 6 夕焼けや沈み入るまで紅の中

夕焼けに出会って空一面の紅の中で、夕焼けの情景を中七「沈み入るまで」と描写している点が良い。

#### NO. 14 朝採りや男料理の胡瓜もみ

日常生活の様子が良く表現されており、男料理の簡単な胡瓜もみが朝採りの成果を反映している点が良い。

#### NO. 17 夕顔の白さ一際闇をつき

夕顔の特性を良く見抜いており、下五「闇をつき」の表現が的確で良い。

#### NO. 32 紅ほのと遠くにふゆる蓮の花

蓮の花を良く観察しており、その特性から上五「紅ほのか」と中七「遠くにふゆる」の表現が良くマッチしている点が良い。